

## 連載企画—音の博物館—

## ストックホルムの音楽博物館\*

松谷 晃 宏 (東京工業大学技術部半導体 MEMS 支援センター長)\*\*

ある国際会議で発表するために、2007年7月にストックホルムを訪れた。良い機会なので、会議の合間にストックホルムの音楽博物館に行ってみることにした。建物は昔はパン工場であったとのこと(図-1)。受付で入場料を支払うと直径3cmほどの大きさのシールを渡され、これを身体のどこかに貼れば入館証となる。館内には職員が数人いて、入館者の質問などに答えてくれる。音楽に関する充実した展示のほかに、「音を体験する」ということを重視しているようで、館内に入るとすぐにマイクロホンやオシロスコープがあり、自分の声や様々な楽器の音の波形を見ることができるほか、カエルの鳴き声や人の声やコウモリの出す周波数に相当する音をヘッドホンで聴くことができる。擦弦楽器や打楽器、ハープなどの楽器を実際に演奏できるコーナーもある。初期の鍵盤楽器のメカニズムなども展示してある。Theremin も自分で操作して音の変化を体験できるのが面白い。我が国の shamisen も展示してあった。もちろん ABBA の展示コーナーもある。ヴァイオリン製作工房の様子も再現してあるほか、各楽器が合奏するときの配置で展示してあり前に立つとその音楽が聞こえてくるコーナーも面白い。様々な民族楽器も展示してあり、それぞれの音をヘッドホンで聞くことが可能だ。展示物の中で最も興味深かったのはスウェーデンの民族楽器である「ニッケルハルパ(Nyckelharpa)」であった。立派な楽器が展示してあり、なんとも心地よい音も聞くことができたのだが、写真撮影不可だったので、帰国後にメールのやり取りをし、日本の音響学会誌で紹介するからと言って送っていただいたのが図-2 に示す写真で



図-1 博物館外観



図-2 ニッケルハルパ

ある。ニッケルハルパはスウェーデン通貨の50スウェーデンクローナ札の裏にも音域を示す楽譜と共に印刷されていることからスウェーデンにとっては誇りとするものなのであろう。筆者はヴァイオリンとヴィオラを長年演奏しており、演奏者の視点でヴァイオリンを研究しているので、北欧での唯一のお土産として1枚持ち帰り一人悦に入っている。ニッケルハルパは擦弦楽器であり、ヴァイオリンに似ているがキーを押さえること、共鳴弦・ドローン弦の存在が特徴である。スウェーデンでは、ニッケルハルパは1960年代以降人気をとりもどしているらしい。日本でも演奏会が行われている。

最後に、様々な情報を提供していただいた Curator の Eva Olandersson 氏に感謝する。

\* The Swedish National Collections Music "Musikmuseet," The Stockholm Music Museum.  
<http://stockholm.music.museum>

\*\* Akihiro Matsutani (Tokyo Institute of Technology, Yokohama, 226-8503) e-mail: matsutani.a.aa@m.titech.ac.jp